

ミャンマー産サンソウニン（酸棗仁）の特異的成分の同定について

○大嶋 直浩¹, 在間 一将¹, 鎌倉 浩之¹, 丸山 卓郎¹, 合田 幸広¹, 濱戸 茜²,
山本 豊², 姜 東孝², 横倉 胤夫³ (¹国立衛研, ²栃本天海堂, ³日本粉末薬品)

[目的] 酸棗仁は、クロウメモドキ科サネブトナツメ *Ziziphus jujuba* の種子を基原とする生薬であり、主に不眠症、神経症等の治療を目的とした漢方処方に用いられている。酸棗仁には、正品を基原とする中国産の他に、インドナツメ *Ziziphus mauritiana* を基原とするミャンマー産があることから、酸棗仁のインドナツメに対する純度試験法のための指標成分の探索を目的に、抽出液を LC-MS 及び TLC で分析し、各々の特異的成分を同定した。

[方法・結果] サネブトナツメ及びインドナツメのメタノールエキスをそれぞれ調製し、LC-MS で分析した。その結果、サネブトナツメに特異的なピークが認められた。高分解能質量分析の結果から、このものは、サポニンである jujuboside A (**1**) と推定されたため、標品と保持時間及びマススペクトルを比較分析し、同定した。一方、インドナツメからも特異的なピークが認められたため、それを指標としたインドナツメの成分分画を行った。インドナツメをメタノールで抽出し、その酢酸エチル可溶部をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで分離して、目的的成分を単離し、NMR 等を用いて構造解析を行った。その結果、文献値との比較からシクロペプチドである franguloline (**2**) であることが明らかとなった。しかし、インドナツメのエキス中の **2** の含量は低く、また、鋭敏な検出試薬が見出されなかったため、**2** を TLC 上で検出することは困難であった。そこで、各エキスに特徴的なスポットがあるか検討したところ、インドナツメに特徴的なスポットがあることを確認した。同成分を同定するため、インドナツメエキスの分画を行い、目的的成分を単離した。NMR 及び標品との比較から、その成分を oleanolic acid と同定した。